

< なるほど！知っ得 > ～地域が誇る宝：阿井地区の貴重な遺産～

阿位八幡宮の押輿神事

阿位八幡宮は、永長元年（1096年）に奥湯谷の米山城主であった佐野氏が京都の石清水八幡宮から分社し勧請したものと伝えられている古い社です。

ここでは、10月1日の例大祭に行われる押輿神事という、神輿（みこし）を投げ落とす非常に珍しい伝統行事が伝わっています。この行事は、神事に携わる当家が一切の権限をもって執り行い、9月1日の注連縄張神事の「古伝祭」を行い押輿神事に備えます。いよいよ例祭日になると、神社の参道をはさみ、上の集落と下の集落とに分かれ、選ばれた4人の祭事番により、神輿を石段上から投げ落とします。石段下ではこれを受け止めて吾の地域へ向けて掛け声勇ましく押し合い競り合ううち、頃合いを見て、当家司が停止させ、翌年の豊作と家内安全を祈願するものです。

このような祭り行事は他に類例がなく、今日も古式に則り継承される伝統文化として、地域の誇りにしています。



大原神社（大森大明神）

地元の阿井地区では「大森さん」の愛称で親しまれている大原神社は、出雲国風土記（天平5年：733年）にも登場する由緒ある社として知られ、大名牟遲命（おおなむちのみこと）と玉比女命（たまひめのみこと）をご祭神としています。もともとは、上阿井の雲崎に勧請されていたと伝えられ、江戸時代の万治3年（1660年）に現在の地に移転遷宮しました。

また、玉比女命といえ、川を大きな岩で塞いでワニ（サメ）が登ってこれないようにしたとの伝承を残す「鬼の舌震」を思い浮かべますが、玉比女命を主祭神としているのは、全国でこの神社だけのようなようです。玉比女命と大原神社との繋がりのおもしろいロマンをかきたてます。

神社入り口には、鉄師櫻井家が寄進した立派な手水鉢や鳥居が出迎え、長い石段を駆け上がると、杉の巨木が立ち並ぶ荘厳な佇まいが、風土記の時代から繋がる時の流れを感じさせてくれます。



出典：「奥出雲町の遺産（第1回奥出雲町遺産認定）」2015.3 奥出雲教育委員会から